



**福山大学**  
FUKUYAMA UNIVERSITY

# 学報

2011.3.20 Vol.127

**三蔵五訓**

真理を探究し、道理を实践する。  
豊かな品性を養い、不屈の魂を育てる。  
生命を尊重し、自然を畏敬する。  
個性を伸展し、紐帯性を培う。  
未来を志向し、可能性に挑む。



特集

## 祝 卒業

学位記授与式 学長式辞 .....	1
理事長・総長 挨拶 .....	2
学生表彰 .....	3
訃報 .....	3



ACCREDITED  
2007. 4 ~ 2014. 3



# セレンディピティは あなたの手に

平成22年度 学位記授与式 学長式辞

福山大学 学長 松田 文子

皆さん、ご卒業おめでとうございます。在学中にはたくさんのご経験を学び、多くの人間関係を築かれたことと思います。それらを宝として、皆さんがこれから大きく花開かれることを、心から期待しています。そしてご臨席いただいておりますご家族の皆様、本日は誠におめでとうございます。ご家族の皆様のご長きにわたる物心両面でのご支援に心から感謝申し上げます。

さて、これから大学を巣立って行かれる卒業生の皆さんを待っているのは、時に荒々しく歯をむき出し、時に陰鬱に顔をそむけもする厳しい実社会です。アルバイトやボランティア活動等がかいま見ている実社会とは、相当に違っているでしょう。これまで皆さんは大学に限らず、小学校・中学校・高等学校などの教育機関においては、結果よりはプロセスが大切にされ評価される、そういう状況の中で過ごしてきたと思います。「負けたけれども、よくがんばっていい試合だった」とか、「テストの点は今ひとつだけれど、平素真面目に取り組んでいたのだから」とか。しかし、これから皆さんが踏み出すようになっている実社会はどうでしょうか。きっとプロセスよりもっと成果が重視されることになるでしょう。今の皆さんは、新しい社会に飛び立つ希望と、社会に出てひょっとしてやっってしまうかもしれない失敗への不安との狭間にいるかもしれませんね。そこで今日は、「現代社会は、失敗を

失敗としない、セレンディピティ (serendipity)を持った若者を待っている」というお話をし、卒業生の皆さんへの饒(はなむけ)としたと思います。

セレンディピティという言葉は、欧米人は大好きなのですが、日本ではまだまだあまり使われていません。でも、昨年カップリング反応でノーベル化学賞を受賞された根岸英一先生も鈴木章先生も、それぞれお話の中で使っておられたので、日本でもちょっと広まっているようです。セレンディピティとは、掘り出し物上手とか、タナボタ式に得をする性格とか、特に自然科学の分野では、失敗や偶然から思わぬ発見や成功を収める能力を指します。それは能力ではなく、幸運という「運」の問題ではないかと、皆さんは思われるかもしれませんね。

ところで、「失敗から思わぬ発見や成功を得る」というときの失敗とは何でしょうか。国語の辞書を引くと「やり方が悪くて、予定していた成果が上がらないこと」というようなことが書いてあります。この定義から、実は失敗をなくすることができるのがわかります。やり方が悪ければ、どのようになぜ悪かったのか、それを改善してさらに試みればよいので、そのチャレンジを続けている限り、失敗ではありません。人間は、あらゆる状況から学び、賢くなることのできる動物でもあります。セレンディピティに言及したノーベル化学

賞の鈴木先生や根岸先生も、「目標に向けての根気強い努力」の重要性を、若者に向けて繰り返し述べておられます。

私が言いたいことが、分かっているのではないのでしょうか。昨今の厳しい社会は、実社会に本格デビューした若者をいきなり失敗へと導くことがあるかもしれません。しかし見方を変えれば、実社会は失敗する若者、けれども失敗しても簡単にはくじげない、そういう若者を探し求めているのではないのでしょうか。そのような若者に、掘り出し物や、ちょっとした発見や、思いがけない幸運を投げ与えたいと待っているのです。

皆さん、福山大学の教育理念である全人格教育を受けた皆さんは、福山大学で学んだことを誇りとして、社会に出ても失敗を失敗とせず、その状況から学び、根気強く努力を続け、セレンディピティをわが手に入れましょう。そのようにしてあなたの人生の充実と社会への貢献を目指してください。心から期待しています。また、三蔵祭の時には、大学にホームカミングして、私達教員にそのプロセスを報告していただけないでしょうか。それは教師にとってこの上ない喜びです。

卒業生の皆さん。皆さんのこれからのご活躍を心から願って、式辞を終わりとします。

平成23年3月20日





## 挨拶

学校法人 福山大学 理事長・総長 宮地 尚

すそ広き備南の山脈も、また穏やかなる瀬戸の内海も、すっかり春色めいて参りましたこの佳き日に、晴れて福山大学を巣立つ学生の皆様方、卒業誠におめでとうございます。

また、皆様を今日まで育まれ、支えて頂いた保証人各位の皆様に対しましても、敬意と感謝の意を表し、心からお慶び申し上げる次第です。

皆さんが過ごした4年の間にもさまざまな事があり、多くの変化がありました。

まず①アメリカにオバマ大統領が誕生した。また、日本も政権が交代した。

②アメリカにおいて、サブプライムローン問題が発生し、世界中が金融不安に陥り、未だに脱却できていない。

③その影響もあり、大学生の新卒の就職が厳しくなり、今や就職超氷河期といわれ社会問題化してきた。

④中国の勃興が著しくGDPは昨年世界第2位となった。今や世界経済のけん引役は中国を初めとした新興国になった。

⑤このまま世界は安定化すると思われていたが、最近エジプトをはじめ中東地域、アフリカで民主化を求める動きが勃発し、この動きが中近東及び中国へも波及して来はしないかと危惧されている。

⑥改めて情報化社会の恐ろしさを実感することとなった。

⑦おかげで、石油を中心とした鉱物資源価格も急騰したり、また、小麦、穀物、コーヒーといった食料品資源も高騰してきた。

⑧今までのデフレーションから、インフレが懸念されるようになった。

⑨ iPadの出現。

⑩小惑星探査機はやぶさが無事帰還した。

このように世界の情勢は予断を許さない状況となっています。

このように激変・激動・不安定な実社会への旅立ちに当たり、人生の先輩として一言二言気のついた事を申し上げて餞(はなむけ)の言葉としたいと思います。

日々激変・激動するのが世の常であり、何も今に始まったことではない訳ですが、その大きさ、頻度共に情報化社会で、以前と比較して大きく増加しています。

しかし、ここはここで“春のこない冬はない”“朝のこない夜はない”といったように、回復したり元に戻ったり、いやそれ以上に飛躍、発展も真理です。

その中では、まず自分自身が平常心を保つ事が一番重要なことです。

自分自身を見失ったり、舞い上がったりしないことが必要です。

そこで、いつでもどこでも今自分に何が求められており、今自分は何をしなければならぬのか、これを的確に把握し、そしてそこで自分には何ができるのか、何ができないのか、何をしてはならないのかをはっきり認識して実行すればよいと思います。それを実行できれば、一定の評価、成果を得られると思います。そうすれば世の中はそれ程むずかしくないと思います。

それから、本学の建学の理念である三蔵五訓を憶い浮かべて下さい。

1. いつも前向き志向、未来志向です。
  2. みんなと協力していく紐帯性をもつこと。
  3. 自然を畏敬し、謙虚であること。
  4. 耐久力、ねばり強さをもち、不屈の魂をもつ。
  5. 道理・道義をわきまえます。
- です。この考えはいつでも役に立つ

と思います。

それから先程述べたように、これだけ変化の激しい世の中に対応できる為にも、私たちはいつでも変われるだけの能力を身につけておかねばならないのです。

つまり、今の世の中について行く為にも生涯学習が求められています。

また、人口減の社会であり、社会全体は、縮小志向が強まっていくかもしれません。縮小社会に生き残れるのはまた大変むずかしく、努力もいることなのですが、しかし、社会は若者を必要としています。皆様方の価値はこれからどんどんあがっていくと思います。また、一日一日の積み重ねが皆様方の評価にもなります。今迄は20年、これからは50年から80年、正に人生はこれからです。

若い諸君は思いきりやるより他にありません。

失敗等恐れる必要はないのです。

社会の変化が激しければ激しい程、力強い若さで対処して頂きたいものです。

実社会は学校生活よりも格段におもしろいものです。

皆さんは実社会に出て活躍するために今までがあったのです。

私たち教職員一同は皆さんの成功を心から祈っており、見守っております。

皆様方にとって私共福山大学は心のふるさととして、いつまでも存続し続ける使命があります。福山大学も頑張ります。

皆様方も是非是非頑張ってください。

未来に向かって自信と誇りをもって羽ばたいて下さい。

それでは、さようなら。

平成23年3月20日

# 平成22年度 学生表彰

## 学業部門 工学部 情報工学科 山田 浩市



情報工学科では、経済産業省認定の国家資格である「情報処理技術者試験」の取得を積極的に応援しています。この資格は、「ITパスポート試験」、「基本情報技術者試験」、「応用情報技術者試験」と次第に難しくなっていきます。今回、学長賞を受賞した山田君は、2年次に「基本情報技術者試験」、3年次に「応用情報技術者試験」の資格を取得しています。特に、最後の資格は、学部生が合格することはかなり難しく、当学科ではこの10年間で3名しか合格していません。

彼は資格の取得だけではなく、大学祭では、学科の催しである「ゲームプログラミングコンテスト」に2年続けて参加しており、そのプログラミング能力を十分に発揮してくれました。

山田君は卒業後、「世の中で実際に使われるソフトウェア製品を作りたい」という新しい目標を持っています。大学で学んだことを生かして その目標を必ず実現してくれることでしょう。

情報工学科 教授 尾関 孝史

## 学業部門 人間科学研究科 心理臨床学専攻 田原 歩美

努力家であるということが6年間そばで見ているの印象です。心理学を学ぶかわら高等学校教諭一種免許状(地理歴史)も取得しました。また、卒業研究「高校生を対象とした性教育ピア・カウンセリングの効果」は、数理システム主催の懸賞論文学生研究奨励賞を受賞し、学術雑誌「マクロ・カウンセリング研究」に掲載されました。この頃から研究に興味をわき、大学院進学を考えるようになりました。幸運にも公益信託松尾金蔵記念奨学基金奨学生に選

ばれ、大学院進学を果たしました。大学院でも学業と研究に精進し、その成果を、修士論文「青年期における性的自己決定に関する研究」にまとめました。学業のかたわら、高大連携事業にも参加し、2年間を通して不登校生徒への学習支援に関わり、その活動は高校で高く評価されています。大学院修了後は専門学校の非常勤講師(心理学)を務めながら、研究生としてさらに研究を継続するとともに、学部で取得した教員免許を活かし学校心理士の資格



取得をめざしています。ファイト、田原さん!  
人間科学研究科長(心理学科教授)  
青野 篤子

## 安陪 稔先生のご逝去を悼んで

本学名誉教授の安陪稔先生が平成23年1月18日に78歳で逝去されました。先生は昭和31年に京都大学工学部電気工学科をご卒業ののち、同大学院生、同大学教官として電気回路中の非線形現象、電気自動車などの研究や電気工学の教育に従事されました。なお、大学紛争の合間の学生との懇親の場で、軟式テニス、華麗な社交ダンス(タンゴ)の披露をされたことがあります。

平成9年からは福山大学工学部電子・電気工学科教授として電気機器分野の授業を担当されました。学生の受講ノートからは板書の丁寧さ、体調が思わしくない時に細やかな研究指導をされていた姿が思い出されます。平成18年の定年退職までに学科長、工学部長、工学研究科長、学長補佐を歴任され大学の充実に尽力されました。永年の教育・研究のご功績により平成23年に正四位 瑞宝中綬章を受章されました。ここに先生のご冥福をお祈り致します。

## 喜多村 幸夫先生のご逝去を悼んで

喜多村先生は、京都大学をご卒業され、郵政省勤務、ゲンプラン勤務、京都大学講師ののち、設計事務所を設立され、増田友也先生の研究室の学生の指導に従事されました。

昭和55年福山大学・建築学科・助教授を経て、60年に教授に就任されました。

私がはじめて喜多村先生にお会いしたのは、設計製図の授業です。

「建築の設計とは、人間の営みの把握から始めなければならない」という言葉が今でも深く心に残っています。4年次に進級し、同級生3名とともに、喜多村研究室に配属を希望し、卒業設計に取り組みました。先生のご指導はとても厳しく、鋭い助言をいただきました。

後年、私が福山大学勤務となった初日に、十数年ぶりにお会いしたのにもかかわらず、近くお声をかけていただいたことも、昨日のことのように思い出されます。本学を退職されたあとは、ご連絡の機会も減り、突然の訃報に接し、悲しみに堪えません。

先生の御冥福を心よりお祈りいたします。

## 古野 浩二先生のご逝去を悼んで

古野浩二先生が平成23年2月15日に64歳で逝去されました。先生は昭和46年九州大学大学院薬学研究所を修了された後、中外製薬総合研究所、九州大学薬学部(2年間ハーバード大学医学部留学)で研究に取組まれ、平成元年に本学薬学部の衛生化学研究室に赴任されました。多くの学生に慕われながら教育に情熱を注がれ、社会で活躍している多数の人材が研究室から巣立ちました。研究面においても、独自の着想による研究を国際誌に発表されるなど多くの業績を残されています。大学内ではRIセンター長をはじめとして様々な職務に従事されました。また、大学内外から依頼された講演なども数多くこなされ、さらに、最近では医療薬学教育の「在宅医療」に関心を寄せられ、備後地域の薬剤師会と連携した卒後研修会を開催するなど地域社会にも多大な貢献をされていました。先生の突然のご逝去は痛恨の念に堪えません。ここに先生の遺徳を偲び、ご冥福をお祈り申し上げます。

## 編集後記

今年度も学報の卒業式号を発行する季節になりました。この学報には、松田文子学長の式辞と宮地尚理事長の挨拶を掲載しました。できればゆつくりと読んで欲しいと思っています。これからの人生の中で、松田学長の“セレンディピティをわが手に入れましょう。”という言葉がふと心に浮かぶ瞬間、宮地理事長の“実社会は学校生活よりも格段におもしろい”という言葉を実感する瞬間があるかもしれません。大学から巣立っていく皆さまの今後の活躍を心よりお祈りしています。

発行 福山大学  
編集 福山大学広報委員会  
〒729-0292 広島県福山市学園町1番地三蔵  
TEL(084)936-2111 FAX(084)936-2213

<http://www.fukuyama-u.ac.jp>